

学ぶ

中日新聞教育報道部 kyoiku@chunichi.co.jp

性別より「自分」基準で

情報やものづくりをはじめ、世界的に成長著しい分野を率いる理工系人材のニーズが高まっている。ただ工学系は一部を除き、学生も現場も女性の割合は少ない。金城学院大（名古屋守山区）で8月26日に開かれたシンポジウムでは大学や企業、行政などの現場で活躍する女性たちが「工学分野における女性活躍への期待」をテーマに、課題や今後の発展への鍵を議論した。（服部 純）

来春デザイン工学部新設・金城学院大でシンポ



●理系の先輩が登壇

パネル討論では、同大卒業生である名古屋大大学院情報学研究科准教授の浦田真由さんのほか、NTT西日本東海支店長の児玉美奈子さん、デンソー先端技術研究所長の伊藤みほさん、名古屋市長の伊藤みほさん、代官が登壇。金城学院大国際情報学部教授の岩崎公弥子さんの司会で語り合った。

登壇者はいずれも周囲を率いるポジションにいますが、それぞれが職場や仕事先で感じた女性活躍の面での課題を具体的に話した。子育てなど女性にも関係の深い内容を議論する場面もあった。でも「女性（自分）が他にはない」とも。企業でも、意思決定に関わる役職にいる女性の比率は高くない。

●女性の人材も

児玉さんは、人々の価値観が多様化する中で「企業が画一的な固まった思考を持つ人だけで企画しているのは、お客さまのニーズに答えられない」と指摘。伊藤さんも「イノベーション（技術革新）を起こすとなるとダイバーシティ（多様性）は非常に重要。女性やグローバル人材の比率をもっと増やさないといけない」と語った。

大学生や高校生が、進学や社会に出る際の不安や疑問についてパネルストに質問する場面も。「女子は理系を選択しにくい」というイメージを持つ人がいるとの間に、吹さんは「女性だからこれはダメ、これではできない、というのは刷り込み。好きなことは個人によって違う」と回答。

浦田さんは「文系が理系かという枠にとらわれず、自分が本当に学びたいことに挑戦してほしい」と訴えた。

女子大である金城学院大は来年4月、デザイン工学部を新設する。工学の要素を社会で実践することを念頭に置いた、建築サイエンス「情報デザイン」の2学科を設置する予定で、シンポは日本工学アカデミー中部支部と共催。関係者や学生など約100人が聴講した。

岩崎さんは、建築を除く工学系の学部では一般的に男性の比率が高いとされることについて「分野によってはジェンダーの偏りがあるのは事実。私たちがこれから築けるより良い社会をつくっていききたい」と新学部への期待を込めた。